

様式第 1 号の 1

農地法第 3 条の規定による許可申請書		平成 年 月 日	〇〇区〇〇〇〇課受付						
(あて先) 新潟市長 <譲渡人>	<譲受人>								
氏名 (名称及び代表者氏名)	⑨	氏名 (名称及び代表者氏名)	⑨						
下記農地（採草放牧地）について <table style="display: inline-table; vertical-align: middle; margin-left: 10px;"> <tr> <td style="font-size: 3em; vertical-align: middle;">}</td> <td style="padding: 0 5px;">を</td> <td style="font-size: 3em; vertical-align: middle;">}</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">                     所有権 ( )                      賃借権                      使用貸借による権利                      その他使用収益権 ( )                 </td> <td></td> <td style="padding: 5px;">                     移転                      設定(期間 年)                      平成 年 月 日                      ~平成 年 月 日                 </td> </tr> </table>			}	を	}	所有権 ( ) 賃借権 使用貸借による権利 その他使用収益権 ( )		移転 設定(期間 年) 平成 年 月 日 ~平成 年 月 日	平成 年 月 日
}	を	}							
所有権 ( ) 賃借権 使用貸借による権利 その他使用収益権 ( )		移転 設定(期間 年) 平成 年 月 日 ~平成 年 月 日							
			整 理 番 号						
したいので、農地法第 3 条第 1 項に規定する許可を申請します。(該当する内容に○を付してください。)									

記

1 当時者の氏名等

当時者	氏名(名称)	年齢	住所	職業
譲渡人				
譲受人				

2 許可を受けようとする土地の所在等 (土地の登記事項証明書 (全部事項証明書に限る。) を添付してください。)

所在: 新潟市 区			地目		面積 (㎡)	都市計画法及び農 業振興地域の整備 に関する法律によ る地域	所有者の氏名 又は名称 〔現所有者の氏名 又は名称 (登記 簿と異なる場合)〕	所有権以外の使用収益権が設定さ れている場合		対価(賃料等の 額 (円) 〔10a 当たりの額〕
大字	字	地番	登記簿	現況				権利の 種 類	権利者の氏名又 は名称	
										/10a
計			田		畑		採草放牧地		計	

3 権利を設定し、又は移転しようとする契約の内容及び事由の詳細

権利の設定・移転時期 平成 年 月 日	(譲渡人事由)	(譲受人事由)
土地の引渡し時期 平成 年 月 日		

新 指令 第 号	上記のとおり許可する。
平成 年 月 日	新潟市長 篠田 昭

(記載要領)

- 1 申請者の氏名 (法人にあつてはその代表者の氏名) の記載を自署する場合においては、押印を省略することができます。
- 2 法人である場合は、住所は主たる事務所の所在地を、氏名は法人の名称及び代表者の氏名をそれぞれ記載し、定款又は寄付行為の写しを添付 (独立行政法人及び地方公共団体を除く。) してください。
- 3 競売、民事調停等による単独行為での権利の設定又は移転である場合は、当該競売、民事調停等を証する書面を添付してください。

I 一般申請記載事項

<農地法第3条第2項第1号関係>

1-1 権利を取得しようとする者又はその世帯員等が、現に所有し、又は使用収益権を有する農地及び採草放牧地の状況

所有地		農地面積 (㎡)	田	畑	樹園地	採草放牧地面積 (㎡)
			①			
	自作地					
	貸付地					
所有地以外 の土地		所在・地番	地目		面積 (㎡)	状況・理由
			登記簿	現況		
	非耕作地					

所有地以外 の土地		農地面積 (㎡)	田	畑	樹園地	採草放牧地面積 (㎡)
			③			
	借入地					
	貸付地					
所有地以外 の土地		所在・地番	地目		面積 (㎡)	状況・理由
			登記簿	現況		
	非耕作地					

(記載要領)

- 「自作地」、「貸付地」及び「借入地」には、現に耕作又は養畜の事業に供されているものの面積を記載してください。  
なお、「所有地以外の土地」欄の「貸付地」は、農地法第3条第2項第6号の括弧書きに該当する土地です。
- 「非耕作地」には、現に耕作又は養畜の事業に供されていないものについて、筆ごとに面積等を記載するとともに、その状況・理由として、「賃借人〇〇が〇年間耕作を放棄している」、「～であることから条件不利地であり、〇年間休耕中であるが、草刈り・耕起等の農地としての管理を行っている」等自らの耕作又は養畜の事業に供することができない事情等を詳細に記載してください。

1-2 権利を取得しようとする者及びその世帯員等の機械の所有の状況、農作業に従事する者の数等の状況

(1) 作付 (予定) 作物、作物別の作付面積

	田	畑			樹園地			採草放牧地
作付 (予定) 作物								
権利取得後の面積 (㎡)								

(2) 大農機具又は家畜

数量	種類	耕耘機	トラクター	田植機	コンバイン	乾燥機	動力初搾機	農用自動車			
		確保しているもの	所有								
導入予定のもの	所有										
	リース										
(資金繰りについて)											

(記載要領)

- 「大農機具」とは、トラクター、耕運機、自走式の田植機、コンバイン等です。「家畜」とは、牛、豚、鶏等です。
- 導入予定のものについては、自己資金、金融機関からの借入れ (融資を受けられることが確かなものに限る。) 等資金繰りについても記載してください。

(3) 農作業に従事する者

① 権利を取得しようとする者が個人である場合には、その者の農作業経験等の状況

農作業暦	年	農作業技術修学歴	年	その他 ( )	年
------	---	----------	---	---------	---

② 世帯員等その他常時雇用している労働力 (①の者を除く)

現在	人	農作業経験の状況	
増員予定	人	農作業経験の状況	

③ 臨時雇用労働力(年間延人数)

現在	人	農作業経験の状況	
増員予定	人	農作業経験の状況	

④ ①～③の者の住所地、拠点となる場所等から権利を設定又は移転しようとする土地までの平均距離又は時間

平均距離	平均移動時間
------	--------

<農地法第3条第2項第2号関係> (権利を取得しようとする者が農地所有適格法人である場合のみ。)

2 その法人の構成員等の状況 (添付したときは、チェックしてください。)

添付資料：農地所有適格法人としての事業等の状況(別紙)

<農地法第3条第2項第3号関係>

3 信託の引受け該当有無 (以下の該当するものに○を付してください。)

信託の引受けによる権利の取得 

有	無
---	---

<農地法第3条第2項第4号関係> (権利を取得しようとする者が個人である場合のみ記載してください。)

4 権利を取得しようとする者又はその世帯員等のその行う耕作又は養畜の事業に必要な農作業への従事状況

(「世帯員等」とは、住居及び生計を一にする親族並びに当該親族の行う耕作又は養畜の事業に従事するその他の2親等内の親族をいいます。)

農作業に従事する者の氏名	年齢	主たる職業	権利取得者との関係 (本人又は世帯員等)	農作業への年間従事日数	備考

(記載要領)

備考欄には、農作業への従事日数が年間150日に達する者がいない場合に、その農作業に従事する者が、その行う耕作又は養畜の事業に必要な行うべき農作業がある限りこれに従事している場合は○を記載してください。

<農地法第3条第2項第5号関係>

5 権利を取得しようとする者又はその世帯員等の権利取得後における経営面積の状況

(1) 権利取得後において耕作の事業に供する農地の面積の合計  (1-1の①+③+権利を取得しようとする農地の面積)  = _____ (㎡)	(2) 権利取得後において耕作又は養畜の事業に供する採草放牧地の面積の合計  (1-1の②+④+権利を取得しようとする採草放牧地の面積)  = _____ (㎡)
---	---

<農地法第3条第2項第6号関係> (転貸する場合のみ記載してください。)

6 転貸が認められる場合への該当有無 (以下の該当するものに○を付してください。)

有	無
---	---

<農地法第3条第2項第7号関係>

7 周辺地域との関係

権利を取得しようとする者又はその世帯員等の権利取得後における耕作又は養畜の事業が、権利を設定し、又は移転しようとする農地又は採草放牧地の周辺の農地又は採草放牧地の農業上の利用に及ぼす影響について。

支障の有無 ⇒ 有 ・ 無 (いずれかを○で囲む。)

「有」の場合はその具体的な内容を記載してください。(例えば、集落営農や担い手への集積等の取組への支障、農薬の使用法の違いによる耕作又は養畜の事業への支障等について記載してください。)

添付すべき書類

- 1 申請土地の全部事項証明 (登記簿謄本)
- 2 申請人住民票抄本 (譲受人・譲渡人双方必要)
- 3 位置図
- 4 その他参考となる書類

新潟市民は不要

譲受人が、次のいずれかに該当する場合は、以下Ⅱを記載してください。

- ①農地所有適格法人以外の法人
- ②譲受人又はその世帯員等が農作業に常時従事しない。

それ以外の者は、Ⅱの記載は不要です。

**Ⅱ 使用貸借又は賃貸借に限る申請での追加記載事項**

(留意事項)

当該条件が記されている契約書の写しを添付してください。

また、当該契約書には、「賃貸借契約が終了したときは、乙は、その終了の日から〇〇日以内に、甲に対して目的物を原状に復して返還する。乙が原状に復することができないときは、甲が原状に回復するために要する費用を乙が負担する。」「甲の責めに帰さない事由により賃貸借契約を終了させることとなった場合には、乙は、甲に対し賃借料の〇年分に相当する金額を違約金として支払う。」等を明記することが適当です。

<農地法第3条第3項第2号関係>

8 地域との役割分担の状況

地域の農業における他の農業者との役割分担について、具体的にどういった場面でどういった役割分担を担う予定であるかを以下に記載してください。

(例えば、農業の維持発展に関する話し合い活動への参加、農道、水路、ため池等の共同利用施設の取決めの遵守、獣害被害対策への協力等について記載してください。)

<農地法第3条第3項第3号関係> (権利を取得しようとする者が法人である場合のみ記載してください。)

9 その法人の業務を執行する役員のうち、その法人の行う耕作又は養畜の事業に常時従事する者の役職名及び氏名並びにその法人の行う農業への従事状況

氏名	役職名	右記のうち、左記の者が当該事業に 参画・関与している期間			その法人が農業を行う期間 (労務管理や市場開拓等も含む。)
		直近	年	か月	
		直近	年	か月	年                      か月
		見込み	年	か月	
		直近	年	か月	
		見込み	年	か月	
		直近	年	か月	
		見込み	年	か月	

Ⅲ 特殊事由により申請する場合の記載事項

10 以下のいずれかに該当する場合は、該当するものに○を記入し、Ⅰの記載事項のうち指定の事項を記載するとともに、それぞれの事業・計画の内容を「事業・計画の内容」欄に記載してください。

○を記入	Ⅰの記載事項（記載必要の場合は○）							
	1-1	1-2	2	3	4	5	6	7
取得しようとする権利が地上権（民法269条の2第1項の権利）若しくはこれと内容を同じくするその他の権利 ※ 周辺土地、作物、家畜等の被害の防除施設の概要と関係権利者との調整の状況を「事業・計画の内容」欄に記載してください。								
・農業協同組合法第10条第2項に規定する事業を行う農業協同組合及び農業協同組合連合会が、同項の委託を受けることにより農地又は採草放牧地の権利を取得しようとする場合 ・農業協同組合若しくは農業協同組合連合会が、同法第11条の31第1項第1号に掲げる場合において使用貸借権又は賃借権を取得しようとする場合								
権利を取得しようとする者が景観整備機構である場合 ※ 景観法第56条第2項の規定により市町村長の指定を受けたことを証する書面を添付してください。								
権利を取得しようとする者が法人であって、その権利を取得しようとする農地又は採草放牧地における耕作又は養畜の事業がその法人の主たる業務の運営に欠くことのできない試験研究又は農事指導のために行われると認められる場合	○			○	○		○	○
地方公共団体（都道府県及び地方開発事業団を除く。）がその権利を取得しようとする農地又は採草放牧地を公用又は公共用に供すると認められる場合	○			○	○		○	○
教育、医療又は社会福祉事業を行うことを目的として設立された学校法人、医療法人、社会福祉法人その他の営利を目的としない法人が、権利を取得しようとする農地又は採草放牧地を当該目的に係る業務の運営に必要な施設の用に供すると認められる場合	○			○	○		○	○
独立行政法人農林水産消費安全技術センター、独立行政法人種苗管理センター又は独立行政法人家畜改良センターがその権利を取得しようとする農地又は採草放牧地をその業務の運営に必要な施設の用に供すると認められる場合	○			○	○		○	○
農業協同組合、農業協同組合連合会又は農事組合法人（農業の経営の事業を行う者を除く。）がその権利を取得しようとする農地又は採草放牧地を稚蚕共同飼育の用に供する桑園その他これらの法人の直接又は間接の構成員の行う農業に必要な施設の用に供すると認められる場合（注）	○		○	○	○		○	○
森林組合、生産森林組合又は森林組合連合会がその権利を取得しようとする農地又は採草放牧地をその行う森林の経営又はこれらの法人の直接若しくは間接の構成員の行う森林の経営に必要な樹苗の採取又は育成の用に供すると認められる場合（注）	○		○	○	○		○	○
乳牛又は肉用牛の飼養の合理化を図るため、その飼養の事業を行う者に対してその飼養の対象となる乳牛若しくは肉用牛を育成して供給し、又はその飼養の事業を行う者の委託を受けてその飼養の対象となる乳牛若しくは肉用牛を育成する事業を行う一般社団法人又は一般財団法人が、その権利を取得しようとする農地又は採草放牧地を当該事業の運営に必要な施設の用に供すると認められる場合（注）	○		○	○	○		○	○
東日本高速道路株式会社、中日本高速道路株式会社又は西日本高速道路株式会社がその権利を取得しようとする農地又は採草放牧地をその事業に必要な樹苗の育成の用に供すると認められる場合	○		○	○	○		○	○

(注) 以下のいずれかに該当する一般社団法人又は一般財団法人に限る。これを満たしていることを証する書面を添付すること  
 ・ その行う事業が上述の事業及びこれに附帯する事業に限られている一般社団法人で、農業協同組合、農業協同組合連合会、地方公共団体その他農林水産大臣が指定した者の有する議決権の数の合計が議決権の総数の4分の3以上を占めるもの  
 ・ 地方公共団体の有する議決権の数が議決権の総数の過半を占める一般社団法人又は地方公共団体の拠出した基本財産の額が基本財産の総額の過半を占める一般財団法人

(事業・計画の内容)





農地所有適格法人としての事業等の状況（別紙）

（記載上の注意）

以下「農業」には農作業のほか、労務管理や市場開拓等も含まれます。

<農地法第2条第3項第1号関係>

1-1 事業の種類

区分	農業		左記農業に該当しない事業の内容
	生産する農畜産物	関連事業等の内容	
現在（実績又は見込み）			
権利取得後（予定）			

1-2 売上高

年度	農業	左記農業に該当しない事業
3年前（実績）		
2年前（実績）		
1年前（実績）		
申請日の属する年 （実績または見込み）		
2年目（見込み）		
3年目（見込み）		

<農地法第2条第3項第2号関係>

2 構成員全ての状況

（添付書類にチェック）

- 組員名簿又は株主名簿の写し
- 農業法人に対する投資の円滑化に関する特別措置法に基づく承認会社であって同法第10条第1項の適用を受けるものを構成員とする場合
  - ① 構成員が承認会社であることを証する書面
  - ② 構成員の株主名簿の写し（その有する議決権を記載したもの）
- 農業法人に対する投資の円滑化に関する特別措置法に基づく承認会社又は同法第5条に規定する承認組合であって同法第10条第2項の適用を受けるものを構成員とする場合
  - ① 構成員が承認会社又は承認組合であることを証する書面

(1) 農業関係者（権利提供者、常時従事者、農作業委託者、農地中間管理機構、地方公共団体、農協、投資円滑化法に基づく承認会社・承認組合等）

氏名又は名称	議決権の数	構成員が個人の場合は以下のいずれかの状況				
		農地等の提供面積 (㎡)		農業への年間従事日数		農作業委託の内容
		権利の種類	面積	直近実績	見込み	

(2) 関連事業者（法人から物資の供給又は役務の提供を受けている者等）

氏名又は名称	議決権の数	取引関係等の内容（法人との連携について農商工連携法等の法律に基づく認定を受けた場合は、法律の名称、当該認定を受けた年月日、認定計画の期間満了日及び取引関係等の内容）

(3) その法人の議決権等

議決権の数の合計			その法人が行う農業に必要な年間総労働日数  _____日
内 訳	農業関係者の議決権の数（割合）	(    %)	
	関連事業者等の議決権の数（割合）	(    %)	

(留意事項)

- 1 関係事業者がいる場合には、その法人とその構成員との間で締結された契約書の写し等その構成員が関連事業者であることを証する書面を添付してください。
- 2 「農商工連携法等の法律に基づく認定」は、食品流通構造改善促進法、中小企業者と農林漁業者との連携による事業活動の促進に関する法律、農林漁業有機物資源のバイオ燃料の原材料としての利用の促進に関する法律、米穀の新用途への利用の促進に関する法律のいずれかに基づく認定です。
- 3 「農商工連携法等の法律に基づく認定を受けた場合」には、いずれかの認定を受けたことを証する書面の写しを添付してください。

<農地法第2条第3項第3号関係>

3 理事、取締役又は業務を執行する社員全ての農業への従事状況

氏名	住所	役職	農業への年間従事日数		必要な農作業への年間従事日数	
			直近実績	見込み	直近実績	見込み

<国家戦略特別区域法第18条第1項関係>

4 国家戦略特別区域法第18条第1項第3号に規定する事業への従事状況

その事業の内容		その事業に従事する理事等の氏名	年間従事日数	
原料又は材料として使用する生産農畜産物	製造又は加工品の名称		直近実績	見込み

(国家戦略特別区域法第18条第1項の適用を受ける場合のみ記載してください。)

(記載要領)

- 1 「農業」には、以下に掲げる「関連事業等」を含み、また、農作業のほか、労務管理や市場開拓等も含まれます。
  - (1) その法人が行う農業に関連する次に掲げる事業
    - ア 農畜産物を原料又は材料として使用する製造又は加工
    - イ 農畜産物の貯蔵、運搬又は販売
    - ウ 農業生産に必要な資材の製造
    - エ 農作業の受託
    - オ 農村滞在型余暇活動に利用される施設の設置及び運営並びに農村滞在型余暇活動を行う者を宿泊させること等農村滞在型余暇活動に必要な役務の提供
  - (2) 農業と併せ行う林業
  - (3) 農事組合法人が行う共同利用施設の設置又は農作業の共同化に関する事業
- 2 「1-1 事業の種類」の「生産する農畜産物」欄には、法人の生産する農畜産物のうち、粗収益の50%を超えると認められるものの名称を記載してください。なお、いずれの農畜産物の粗収益も50%を超えない場合には、粗収益の多いものから順に3つの農畜産物の名称を記載してください。
- 3 「1-2 売上高」の「農業」欄には、法人の行う耕作又は養畜の事業及び関連事業等の売上高の合計を記載し、それ以外の事業の売上高については、「左記農業に該当しない事業」欄に記載してください。
 「1年前」から「3年前」の各欄には、その法人の決算が確定している事業年度の売上高の許可申請前3事業年度分をそれぞれ記載し(実績のない場合には空欄)、「申請日の属する年」から「3年目」の各欄には、権利を取得しようとする農地等を耕作又は養畜の事業に供することとなる日を含む事業年度を初年度とする3事業年度分の売上高の見込みをそれぞれ記載してください。
- 4 「2(1)農業関係者」欄には、農業法人に対する投資の円滑化に関する特別措置法第5条に規定する承認会社であって同法第10条第1項の規定の適用を受けるものが法人の構成員に含まれる場合には、その承認会社の株主の氏名又は名称及び株主ごとの議決権の数を記載してください。
 複数の承認会社が構成員となっている法人にあっては、承認会社ごとに区分して株主の状況を記載してください。
- 5 「2(2)関連事業者」の「取引関係等の内容」欄には、例えば、「法人からの生産物を購入している食品会社」、「法人に肥料を販売する肥料会社」、「法人と特許権の専用実施権の設定を行っている種苗会社」等と記載してください。
- 6 「4 国家戦略特別区域法第18条第1項第3号に規定する事業への従事状況」の「国家戦略特別区域法第18条第1項第3号に規定する事業」とは、その生産した農畜産物を原料又は材料として使用する製造又は加工の事業です。